

都市再生整備計画 事後評価シート
古河駅西口地区

平成24年3月

茨城県古河市

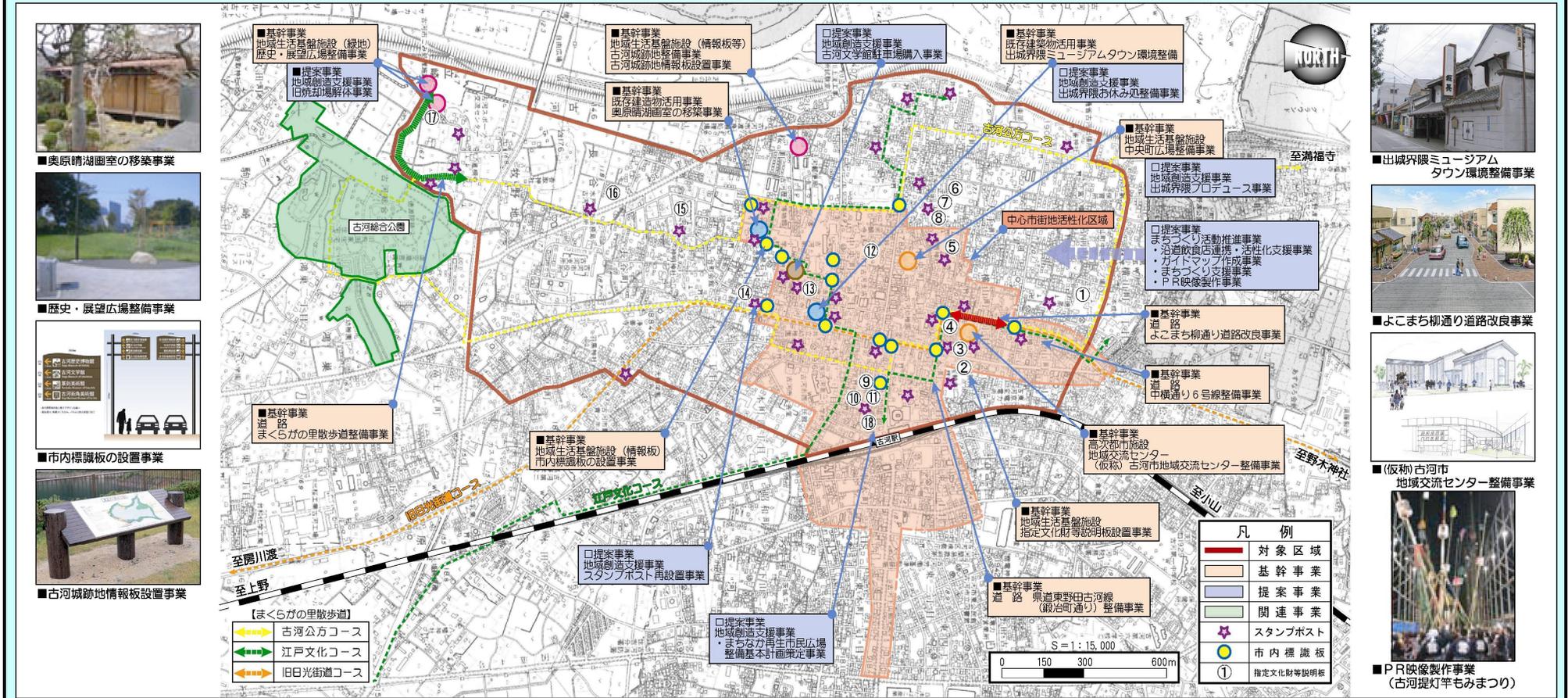
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	茨城県		市町村名	古河市		地区名	古河駅西口地区		面積	250ha			
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	2,602百万円		国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(県道東野田古河線、中横通り6号線、まくらがの里散歩道)、地域生活基盤施設(指定文化財等説明板設置、古河城跡地整備、古河城跡地情報板設置、歴史・展望広場整備) 高次都市施設((仮称)古河市地域交流センター整備)、既存建造物活用事業(出城界隈ミュージアムタウン環境整備、奥原晴湖画室の移築)										
		提案事業	地域創造支援事業(旧焼却場解体、スタンプポスト再設置、まちなか再生市民広場整備基本計画策定、古河文学館駐車場購入、出城界隈お休み処整備) まちづくり活動推進事業(散策路等沿道飲食店連携・活性化支援、ガイドマップ作成)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(ポケットパーク整備)	事業内容の精査により当初計画から削除				事業の削除により目標達成に影響を与えるが、目標及び指標は据え置く					
		提案事業	-	-				-					
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(よこまち柳通り道路改良) 地域生活基盤施設(中央町広場整備)	地区利用者の利便性の向上を図るため追加				事業の追加により、目標の達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く					
		提案事業	地域創造支援事業(出城界隈プロデュース事業) まちづくり活動推進事業(まちづくり支援、PR映像製作)	地区及び古河市のPR、核的施設の周辺環境の向上を図るため追加				事業の追加により、目標の達成にプラスの影響はあるが、目標及び指標は据え置く					
交付期間の変更	当初	平成19年度～23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	各施設の利用者数 (来訪者数)	人/年	62,136	H17	75,000	H23	78,582	58,695	△	あり なし	● ●	平成25年4月
	指標2	まちなか歩行者数	人/日	1,838	H19	2,200	H23	1,678	1,701	△	あり なし	● ●	平成25年4月
	指標3	地域住民による まちづくり組織数	組織数	5	H19	7	H23	10	10	○	あり なし	● ●	
	指標4										あり なし	● ●	
指標5										あり なし	● ●		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	その他の数値指標1	七福神めぐり参加者数	人	300	H18				1,705		道路整備をはじめ、指定文化財等の説明板や市内標識板の設置、古河城跡地の整備、奥原晴湖画室の移築、出城界隈お休み処や環境整備などにより地域の持つ魅力が高まり、地域を巡るイベントなどの参加者数の増加につながってきている。	平成24年4月	
その他の数値指標2	古河朝市来場者数	人	8,000	H21				13,000		道路整備や市内標識板の設置などにより利便性が高まってきているほか、イベントの開催による地域住民や来街者の交流やふれあい広がり、地域の商業・観光の活性化にもつながってきている。			
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	指定文化財等の説明板の設置、古河城跡地や歴史・展望広場の整備、奥原晴湖画室の移築、出城界隈お休み処整備やミュージアムタウン環境整備により、まちなかの歴史・文化資源等を活用した歴史のあるまちとしての情報発信が図られた。また、道路整備などにより地域住民をはじめ、地区への来訪者が安全に通行のできる歩行環境が整備され、地域の魅力の向上につながっている。 施設の利用者より「落ち着いた雰囲気である」「歴史的な資源として保存されていることが素晴らしい」などといった古河の歴史・文化に対する意見なども寄せられている。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	事業の実施状況等の確認		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●					
	住民参加プロセス	まちづくり活動団体等の把握		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●					
	持続的なまちづくり体制の構築	TMO組織との連携		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●					

様式2-2 地区の概要

古河駅西口地区(茨城県古河市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
風格ある歴史・文化と“人”が織りなす、交流・活力のまちづくり 目標1：古河の歴史・文化を学び、誇り、発信する、楽・学ミュージアムタウンの形成 目標2：歩ける、ふれあう、人が主役の安心・安全・快適歩行環境の形成 目標3：まちなか資源と人とのふれあいが育む、もてなしの商業・観光まちづくりの推進	各施設の利用者数(来訪者数)	62,136	H17	75,000 H23	58,695 H23
	まちなか歩行者数	1,838	H19	2,200 H23	1,701 H23
	地域住民によるまちづくり組織数	5	H19	7 H23	10 H23



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 指定文化財等の説明板や古河城跡地情報板の設置、奥原晴湖画室の移築、古河城跡地や歴史・展望広場、出城界隈の整備など、地域の歴史的文化的な資源が活用されているほか、(仮称)古河市地域交流センターやガイドブック、PR映像づくりなどを通して地域情報が発信されているが、来街者や利用者などのニーズに対応した情報発信・提供のできるネットワーク化を図っていく必要がある。 鍛冶町通り線やよこまち柳通りなどの道路整備とともに、市内標識板の設置や出城界隈の環境整備により、だれもが安心して安全に歩行・通行できるまちなかの快適な歩行環境の向上が図られているが、街並みや景観の保全や活用に向けた取り組みを進めていく必要がある。 TMOや市民団体などの自主的な活動、飲食店などと連携した取り組みを進めてきたが、まちづくり組織間の連携やネットワーク化を図っていく必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史・文化資源を生かし、身近に学べる場や触れあえる機会を創造しながら、地域の誇りとなる資源としての魅力を高める。 各施設などにおいて、様々な地域情報の収集・提供を進めていくとともに、住民や来街者の交流や憩いの場としての活用を図る。 道路沿道における景観との調和や、利用者が安心して通行できる歩行空間・環境づくりを進める。 地域住民の積極的な地域づくり活動を支援していくとともに、団体間の連携やネットワーク化を強化する。